

群 教 セ	G05 - 03
	令7.290集
	音楽一小

音楽的な感性を働かせ、 曲のよさを語り合うことのできる児童の育成

——児童が感じたことを、音楽を形づくっている要素と結び付けて

言語化することができるオリジナル教材の活用を通して——

特別研修員 萩原 広生

I 研究の概要

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編では、音楽科の課題として「音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくことの更なる充実」が示されている。また、令和7年度群馬県学校教育の指針では、育成を目指す姿として「曲や演奏のよさや美しさを見付け、確かめながら聴き返したり、思いや意図を持って音楽表現の工夫を試したりしている」とし、指導の重点に「児童生徒の多様な気付きや感じ方を共有・共感しながら、個々の考え方や感じ方が広がる言語活動と音楽活動を設定する」ことを掲げている。

研究協力校（以下、協力校）の児童は、一人一人の違いを認め合いながら意欲的に音楽活動に取り組んでいる。また、表現活動では、音楽に合わせて身体を動かしたり、元気よく歌ったりしながら楽しく音楽活動に取り組んでいる。一方、表現活動と比較すると鑑賞教材への関心はやや低く、音楽を形づくっている要素を根拠に音楽のよさを言語化することに課題が見られる。感じたことを言葉にすることは、児童が自らの感じ方を意識化し、他者との共有を通して新たな気付きや多様な価値観を受け入れる力を育む上で重要である。また、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けながら、音楽を形づくっている要素を手掛かりに曲想を捉えて言語化することで、感性と知識の往還が促され、音楽を深く味わうことにつながると考える。（図1）

そこで、本研究では、音楽的な感性を働かせ、感じたことを、音楽を形づくっている要素と結び付けて曲のよさを語り合うことのできる児童の育成を目指し、曲のよさを主体的に見いだす力を育成するためのオリジナル教材を作成し、その教材を活用した授業を行うこととした。

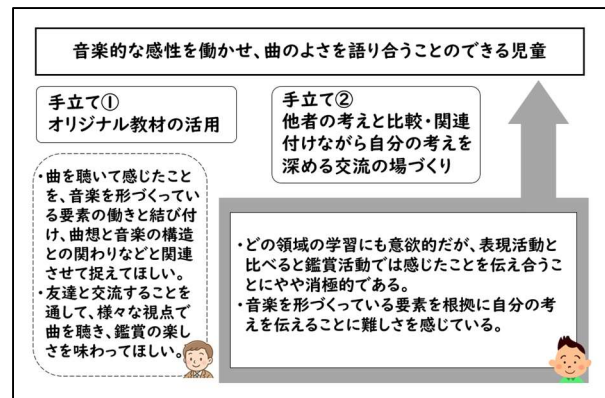


図1 研究のイメージ

2 具体的な手立て

手立て1 オリジナル教材の活用

音楽を形づくっている要素を焦点化し、その要素の働きに着目して聴き比べられる教材を作成する。その教材の活用によって、音楽を形づくっている要素を根拠として、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて曲のよさを見いだせるような常時活動を行う。

また、視覚と聴覚両方から音楽を捉え、感じたことを書き込める楽譜付き音源動画を作成し、活用する。楽譜付き音源動画とは、曲の進行に合わせて楽譜上に青いライトが点灯し、読譜が苦手な児童でも聴いている箇所を即時的に把握するとともに自分の感じたことを線や文字等、様々な方法で書き込めるように工夫した教材である。これにより、音の流れと楽譜との対応を理解しやすくし、曲想を楽譜に示された音楽を形づくっている要素と関連付けて捉える力を育むことができる。

手立て2 他者の考えと比較・関連付けながら自分の考えを深める交流の場づくり

多様な交流形態を通じた他者の考えとの比較により、自己の考えを再構成し、曲のよさについて考えを深めていく言語活動の充実を図る。多様な交流形態の中には、グループでの交流や席を移動しての自由交流、全体での共有などが含まれる。他者の考えに触れ自分の考えと比較することで新たな気付きが生まれ、音楽を形づくっている要素と関連付けて自分の考えを再構築し、鑑賞曲のよさを深く味わうことができるようになる。

II 実践例

- 1 題材名 せんりつのとくちょうを感じ取ろう（第4学年・2学期）
教材名 サン＝サーンス作曲 組曲『動物の謝肉祭』より「白鳥」

2 授業の実際

本時は全9時間計画の第6時に当たる。「白鳥」は、フランスの作曲家サン＝サーンスが作曲した組曲『動物の謝肉祭』の中の1曲で、旋律や伴奏の音の動き、音色など音楽を特徴付けている要素に着目して聴き、それらの働きが曲想を生み出していることに気付くことのできる教材である。第5時で聴き取ったことを基に、本時では「白鳥」の旋律の特徴について理解を深め、曲全体を味わって聴く学習活動を行った。

(1) 手立て1について

常時活動として、音楽を形づくっている要素を焦点化し、その要素の働きに着目して聴き比べられる教材を作成し、音楽を形づくっている要素を根拠として、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて曲のよさを見いだせるような常時活動を行ってきた。この活動では、原曲と、音楽を形づくっている要素の働きを変化させた音源を提示した。例えば、音楽を形づくっている要素の「リズム」に焦点化した教材では、原曲と音源A（付点音符のリズム）、音源B（細かいリズム）の音源を用意した。三つの音源を流し、何が変わっているかをクイズ形式で発問し（図2、3）、そこで感じ取った音楽のイメージを全体で共有した。共有した児童の考えを記録した成果物はメーター形式で掲示する（図4）ことで、今までの学習の蓄積が視覚化され、児童の鑑賞活動への意欲を喚起するだけでなく、児童が鑑賞活動で取り扱った音楽を形づくっている要素を振り返ることができるようにした。この活動では、児童の西洋音楽を聴くことへの抵抗を和らげることもねらいとして、ベートーヴェン作曲「エリーゼのために」、モーツァルト作曲「トルコ行進曲」など、馴染みのある西洋音楽を中心に扱った。児童はクイズ形式の発問に対して真剣に考え、「リズム」や「速さ」などの音楽を形づくっている要素の働きを意識しながら、主体的に鑑賞活動に取り組む姿が見られるようになった。

魔法の音魂プロジェクト ～ベートーベン作曲〈エリーゼのために〉～		
リズム		
もと	A	B
	タッカのリズム スキップやダンスをしている感じ。 ワルツな感じ。 馬みたい。	細かいリズム 玉ねぎを切っている。 バイクのエンジン音。 雷みたい。

図2 常時活動の教材

緩やかな感じがするな。
もとを聴いた身体表現
↓
Aを聴いた身体表現
リズムが変わったら、楽しそうな雰囲気になったよ！

図3 常時活動の様子

図4 常時活動の児童の成果物（メーター形式）の掲示

また、音楽を聴くことだけではなく、視覚的にも音楽を形づくっている要素を捉えられる教材として、楽譜付き音源動画（図5）を自作し、それをを用いて鑑賞の授業を行った。なお、楽譜付き音源動画の作成の手順については資料1に掲載することとする。



図5 楽譜付き音源動画

授業実践では、「白鳥」を聴いて、自分の感じ取ったイメージや聴き取った旋律の特徴を表現できるように、楽譜上で動く青いライトを追いながら、聴こえた旋律をイメージに合わせて色や太さを変えながら線で表す活動を行った。線で表すというシンプルで分かりやすい学習活動だったからこそ、聴き取ったこと、感じ取ったことを言語化することに難しさを感じている児童も、意欲的に取り組む姿を見ることができた（図6、7）。また、言語化が得意な児童については、線で表す活動を通して、曲を注意深く聴くことへの意欲が更に喚起され、活動に熱中する姿が見られた。そして、曲中の気になった部分を繰り返し聴くことで、旋律の動きの特徴や音色など、音楽を形づくっている要素とその働きを捉えながら曲想との関わりを考えることができ、曲想と音楽の構造を結び付けて捉える姿も見られた。

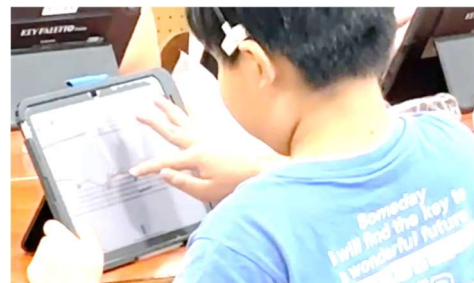


図6 意欲的に活動へ取り組む児童

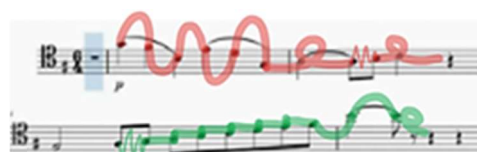


図7 児童の作業画面

授業のまとめる過程では、常時活動の教材を応用し、ピアノ伴奏の「リズム」を変化させた演奏動画（図8）を視聴した。児童は、「白鳥」のよさは、チェロの主旋律だけではなく、ピアノ伴奏の特徴も大きく関わっていることを実感した。原曲のピアノ伴奏の音形は、水のざわめきを表すかのような流麗なアルペジオ（分散和音）となっているが、今回は強烈な和音連打のピアノ伴奏に変化させた演奏動画を視聴した。児童からは「このピアノ伴奏だとライオンみたい」「白鳥というより、もっと大きな動物を感じた」などと話すなど、伴奏も曲全体の雰囲気大きく影響していることに気付く様子が見られた。全体で曲を通して聴く時間には、改めてピアノ伴奏やチェロの旋律に目を向け、曲全体の魅力を話し合うことができた。



図8 ピアノ伴奏を変えた演奏の動画

(2) 手立て2について

他者の考えと比較・関連付けながら自分の考えを深められるよう、多様な交流形態を取り入れ、言語活動の充実を図った。本実践では、全体共有の前に、児童が自由に席を移動して、友達と互いの考えを紹介し、比較する活動を取り入れた。「どうしてそのように線を引いたの?」「チェロの音色が優しい感じがしたから、曲線にしてみたよ」「ぼくは、チェロの音が揺れていると感じたから、くねくねした線をつないでみたよ」などの対話が生まれ、自分の考えの根拠を、音楽を形づくっている要素と結び付けて紹介する姿が見られた（図9）。同じグル



図9 考えを紹介し合う児童

ープの児童の考えだけではなく、多様な考えに触れ、同じ旋律でも、児童によって特徴の捉え方が異なることに気付くことができた。全体共有の場面では、他の児童の考えで印象に残ったものを取り上げ、その考えのどの部分に注目したのかを発表者が電子黒板に提示された楽譜に印を付けて

提示した（図 10）。教師は、紹介された考えの根拠を明確にするため、グループで話し合うよう促した。グループの話合いでは、「○○さんは、ぼくの線の引き方とは違うな。その部分をもう一度聴いて確かめたいな」「楽譜を見ると、この部分は音が上がっていているよね」「音が上がっていくところを滑らかな線をつないでいるから、白鳥が優雅に飛んでいく姿をイメージしたのかな」など、活発なやり取りが見られた。他者の意見のよさを認めながら、自分の考えとの比較を通して、他者の意見の根拠を探り、音楽的な感性を働かせることができたと考えられる（図 11）。その後、実際にその考えを示した児童が、自分の感じ取った旋律の特徴や表現意図を説明し、他の児童は自分たちの予想と照らし合わせて考えを整理した。同様に、もう一つの異なる考えを取り上げ、同じ流れで全体共有を行った。児童は友達の考えと自分の考えを比較しながら、音楽の感じ方を多面的に捉え、学びを深めることができた。そして、児童の考えを、音楽を形づくっている要素と関連付けながら全体で価値付けを行うことで、本時のまとめへとつなげた。

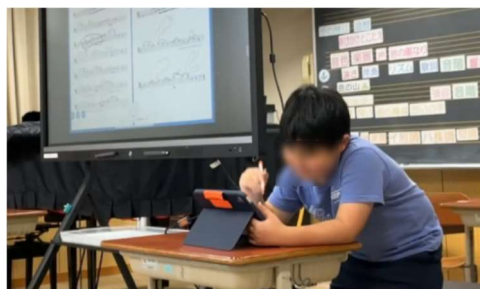


図10 電子黒板に提示する児童



図11 グループで活発に考えを交流する児童

Ⅲ 研究のまとめ

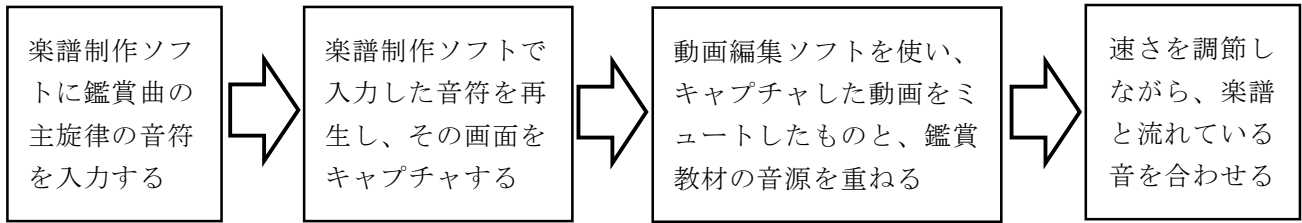
1 成果

- クイズ形式の常時活動を継続して行い、音楽を形づくっている要素に着目しながら聴く経験を積み重ねたことで、児童は主体的に音楽に向き合うようになり、西洋音楽に対する抵抗感が薄れるとともに、そのよさを実感できるようになった。
- 演奏箇所が可視化された教材により、児童は聴き取ったことや感じ取ったことを楽譜上の情報と結び付けて捉えることができ、言語化することが苦手な児童も含めて、自分の考えに根拠をもって表現できるようになった。
- 教師の問い返しやゆさぶり、児童同士で考えを共有・比較する場の設定により、他者の考えを手掛かりに自分の考えを見直し、音楽を形づくっている要素と曲のよさを関連付けて、鑑賞曲のよさを紹介することができた。

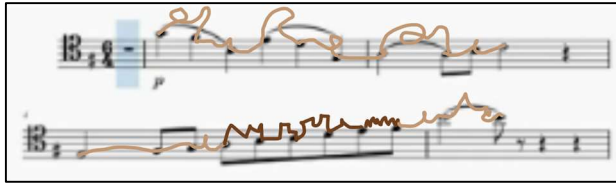
2 課題

- 児童が曲のよさについて更に追究していくようにするためには、活動内容や時間配分などを工夫し、繰り返し同じような学習活動を行う必要がある。
- 児童が自分の考えを更に深めていくには、他者の考えに触れる時間を十分確保する必要がある。個別追究の際にも自然と対話が生まれるような言葉掛け、問い返しなどを今後も工夫していきたい。
- 本実践を通して、鑑賞教材の性質によって有効な聴取の視点や言語活動が異なることが明らかになった。今後は、授業のねらいに迫れるよう、児童の実態や学習内容に応じてオリジナル教材を改良し、教材の特性を踏まえた教材研究を継続して授業改善につなげていく必要がある。

IV 資料



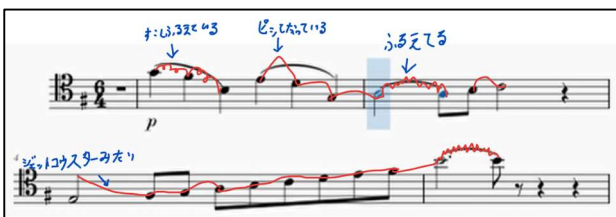
資料1 楽譜付き音源動画の作成手順



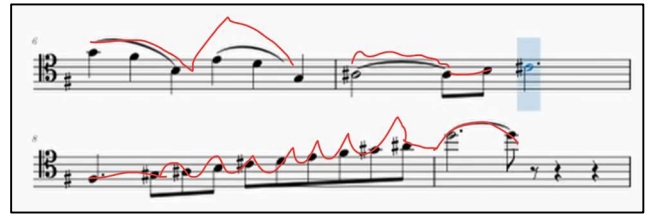
資料2 児童の学習活動の成果物



資料3 児童の学習活動の成果物



資料4 児童の学習活動の成果物



資料5 児童の学習活動の成果物

私が紹介する曲はサン＝サーンス作曲「白鳥」です。白鳥に使われている楽器はピアノとチェロです。この楽器の旋律の特徴は上がり下がりや一音ずつ上がっていく旋律がありました。それぞれの楽器の音色の特徴はピアノは優しい音色でチェロはゆるやかな音色だと思いました。この曲を聴いて想像した白鳥の姿はゆっくりと羽ばたいたり寝たりしている白鳥を想像しました。この白鳥と言う曲はピアノとチェロの優しい感じとゆるやかな感じが混ざった曲です。ぜひ聴いてみてください。

資料6 児童が書いた紹介文

僕は「サン＝サーンス」作曲の「白鳥」を紹介します。この曲で使われる楽器はピアノとチェロです。そして旋律の特徴は上がり下がりが少し激しいところや緩やかなところもあったり、ほとんどはレガートだけど所々ちょっとだけスタカートが入っている気がしました。演奏は少し強いです。そして、それぞれの音色の特徴は、ピアノは優しく音が高く、チェロは力強さと滑らかな音色を感じました。そして自分の想像した白鳥の姿は、優雅に飛んでいる白鳥を想像します。最後にこの曲（白鳥）に価値付けすると・・・『ピアノの伴奏の弱さやチェロの力強さが引き立つ最高の曲です！』。そんな最高の曲、ぜひ皆さんも聞いてみてください！。

資料7 児童が書いた紹介文

サン＝サーンス作曲「白鳥」
私が紹介する曲はサン＝サーンス作曲の「白鳥」という曲を紹介します。このサン＝サーンス作曲の白鳥ではピアノやチェロが使われています。そして旋律の特徴は上がり下がりや一音ずつ上がっていくというのが白鳥の旋律の特徴です。それぞれの楽器の音色の特徴はピアノは優しくチェロはゆるやかな音色をしています。この白鳥の曲で想像した白鳥の姿は2匹の白鳥が一緒にすやすや眠っている姿を想像しました。ピアノとチェロの音がまざっていてきれいな曲なのでぜひ聴いて見て下さい。

資料8 児童が書いた紹介文

突然ですが白鳥という曲は知っていますか。白鳥に使われている楽器はチェロとピアノです。私チェロに注目しました。せりつの特徴は上がったりがはげしい所もあって1音ずつ上がっている所もあります。それで音色の特徴は優しい音色です。他にも想像したら、優雅に飛んでいる姿が見えました。それから一言で言うと鳥が空を飛んでいる、と考えました。みんなもぜひ聞いてみてください。

資料9 児童が書いた紹介文